

創立70周年記念冊子

みのり図書室だより

平成23年4月～平成30年5月迄



(学)大森みのり幼稚園



～みのり図書室紹介！～



図書室蔵書一覧



平成 30 年 6 月 1 日現在

①絵本著者名昇順

②絵本書題名昇順

大森みのり幼稚園

みのり図書だより

平成23年5月30日

大森みのり幼稚園

図書部

～図書室の貸し出しが始まりました～

今回は、図書室の利用状況と子どもたちの様子についてお伝えいたします。5月19日に第1回目の貸し出しが、始まりました。年長組の各クラスが担任の先生と一緒に30分ずつ順番に来てくれました。青いじゅうたんの上で「図書室のきまり」や「本の貸し出しの仕方」などをお話しました。「借りるときには、(お願いします。)本のチェックが終わったときには、(ありがとうごさいました。)"と言いましょ。これは、一般の図書館でも同じようにしますね。」というお話しもしました。みんなお話しを熱心に聞いてくれました。



☆☆☆ 図書室の本は13種類の色に分けられています ☆☆☆

●	●	●	●	●	●	○
日本の話	外国の話	ののさま	虫、カエル、魚	動物	心、身体	形、時計、数

●	●	●	●	●	●
恐竜	食べ物、誕生日、幼稚園	乗り物	おばけ、魔女	宇宙、水、世界	草、木、花

子どもたちの興味のある絵本を選びやすいようにまた絵本を元の場所に戻しやすくできるようにと絵本の棚を分け、それぞれの本にシールを貼り、分類してあります。



先日購入した250冊の本の1部は、「新しく届いた絵本コーナー」に表紙が見やすいようにディスプレイしました。

今回は、この中から本を選んでくれた子どもも多く、新しい迷路の本や「いもとようこさん」の日本昔話からも選んでいました。「みやにしたつやさん」などの恐竜シリーズも人気がありました。

あるクラスでは、「ジャガイモ」の図鑑を借りている子がいました。「どうして?」と聞くと「じゃがいもを自分で育ててみたいんだよ。」という答えが返ってきました。(今、みのり幼稚園の畑では、じゃがいもの花が、満開でとてもきれいです。)

人体に興味があるからと「人体図鑑」を探している子もいました。1番初めに自分のために借りた本を「やっぱり、お母さんが好きな絵本にする。」と換え、「弟にも見せてあげるために換える。」と言って交換し、最後に「やっぱり自分の好きな絵本にする。」と言って3回も絵本を換えた子がいました。おうちで鳥を飼っているの、鳥の育て方の図鑑を借りたいと言って借りた子もいました。それぞれの絵本選びに何かを育てる思いやりや家族を大切に思うやさしさを感じることができました。また、中には、何を借りて良いのかわからないと言った子もいましたので、担任の先生に少しお時間を頂いて、「どんなことに興味がある?」と聞きながら一緒に本を選びました。



貸し出しの後半のクラスは、おうちからすでに決めてきた絵本が、貸し出しされていて他の絵本に変更し、少し残念な気持ちでいる子がいました。

今後は、A班、B班に分け、借りる順番を交代していくことにしました。急な変更で

申し訳ありませんが、多少改善されると思います。みのり幼稚園の図書室で、子どもたちが、素敵な本、気に入った本に1冊でも出合えるようにお手伝いしていきたく思います。



さて、今回お様が借りてきた本は、いかがだったでしょうか?絵本は、決して幼い人たちだけのものではありません。評論家でもあり作家でもある「柳田邦男さん」は、「絵本は、子どもの心を育て、大人の心を変える」とし、絵本は子どものとき、子育てのとき、そして人生の後半になったときと、「人生に3度読むもの」とかたられています。是非、保護者の方もいろいろな本を手にとってみてください。きっとそこには、思いがけなく楽しく、魅力的な世界が広がっていると思います。深い感動を与えてくれる素敵な絵本は、たくさんあるのです。



おおきな木
S・シュェルヴァースタイン
あすなろ書房



旅の絵本Ⅳ
安野光雅
福音館



おすれられないおくりもの
スーザンブレイ
評論社



つみきのいえ
平田研也
白泉社



ずーとずーとだいすきだよ
H. Willehalm
評論社

書店の絵本コーナーに「やなせたかしさん」のコーナーを見つけました。やはり同じように絵本は子どものためだけのものではなく「良い絵本は人生の幸福」であると話しされています。その一説をご紹介します。

時代の流れは、とても速いから、おし流されそうになる。すべてはつかの間に変化していく。しかし絵本は残りますね。絵本の読者は、生後間もなくの赤ちゃんから90歳過ぎた老人もいる。現に僕は、91歳で、絵本を作っているし、また読者でもある。僕の絵本の読者で「産まれてくる子どものために絵本を買う」というお母さんもいる。絵本は、作るのも読むのも絵を見るだけでも嬉しい。単純なので簡単に国境を越えて世界中に読者がいる。文字が読めなくても絵だけで理解される。僕は、デザイン学校をでて、いつの間にか漫画を職業とするようになり、そのうち絵本を書き始めるようになり、絵本作家の道にすすんだ。

良い絵本にめぐり合うのは、人生の幸福である。そして、それは親、子、孫と何代にもわたって読みつがれていく。このメッセージが少しでも皆様のお役に立つようにと僕も心から願っている。

「やなせたかしさん」は子どもたちの大好きな「アンパンマン」の作者です。いつも私たちが元気と勇気をもたらしている「アンパンマン」。その作者が、91歳で活躍されている事を知り、ますます元気を頂きました。

絵本についてのQ&A

Q1 読み聞かせのポイントを教えてください

Q2 パパにも読んでもらったほうが効果的?

成長の度合いによって興味の度合いが違ってきますので、お子様の反応を見ながら読み進めていくことが大切。時には同じページを何度もせがまれる事があるかもしれませんが、無理にページをめくらず、お子様のペースにあわせて読んであげましょう。

読み手が変わると同じ絵本でも違うお話に聞こえたり、違った印象を受ける場合があります。また、お父様ならではの絵本のチョイスや読み聞かせなど、お母様にはない部分がお子様にとって新鮮なことがあります。是非お父様も読み聞かせをされてみてください。

☆ 「絵本のでびき」(丸善社)から、抜粋しました。ご家庭の参考にされてみては、いかがでしょう ☆

みのり図書だより

平成23年7月15日
大森みのり幼稚園
図書部

～もうすぐ夏休みですね～

4月にスタートした年長組さんの図書の貸し出しも順調にスタートし、年中、少クラスも雨の日には図書室利用をしてくれました。先日行われた「ふれあいの集い」では出版社の方による読み聞かせなどがありました。絵本に触れる子どもたちを間近に見られて嬉しく思っております。いつもは、年長組にお配りしている「図書だより」ですが、今回は、全クラスに向けてお届けしたいと思います。

4月に年長さんにお伝えしましたが、もう一度言葉を変えて、なぜ、絵本の読み聞かせが大切をお伝えしましょう。1人で絵本を読んでいる時に、年少組の頃には、絵本の「絵」を楽しんでいることが多いでしょう。「字」を読めるようになった頃には字を追って読むことを楽しめるようになってきます。しかし、大人に読んでもらっている時、子どもは絵本の「絵」を読み、自由な気持ちでお話の世界に入りこむことができます。そして絵本を読んであげると言うことは、読み手も聞き手も同じお話しを「共有する」ことでもあります。自分だけが体験する旅ではなく、先生、お母さん、お父さんと一緒に同じ旅をしたと言う安心感、共有意識を子どもたちは持つことができます。それが子どもの安定した心の育成には不可欠です。図書室でも「担任の先生に読んでもらったからこの本を借りていく。」と言って絵本を嬉しそうに借りて行く年長組のおさんがいました。

また、学習の面でも読み聞かせが大事だと言われてます。小学校に入学する頃の子どもの語彙は2,500くらいですが、幼児期に十分絵本を読んでもらった子どもの語彙は3,000から3,500くらいあると言われます。この差は目には見えませんが、読み聞かせをもらった子どもたちは、文章の読解力やイメージすることに優れるため、小学校3年生くらいから国語や算数などでの理解力が違ってくると言われてます。それと同時に話をする「聞く力」も伸びていきます。そのため学校では、今、読み聞かせが盛んに行われています。



もうすぐ、夏休みですね。ご家族で、海や山、親戚のおうちに行かれる方も多いと思います。普段とは違った環境で過ごされる中、植物や虫などの「自然」と触れることもあるかと思います。みのり幼稚園にもあります「むしたちのかくれんぼ」などの作者の得田之久さんからのメッセージを紹介させていただきたいと思います。



「虫が好き」「自然が好き」になってほしい

【むしたちのかくれんぼ】

【むしたちのおまつり】



ちょっと前まで、日本では昆虫好きの子どもたちが、ちまたにあふれていました。夏ともなれば、麦わら帽子をかぶり片手に虫かご、片手に網を持った子どもが、元気に走り回っていました。

私たち日本人にとって、この当たり前の光景は、実は世界では大変珍しいことだったのです。私たちは昔から、蛸釣り、せみとり、とんぼ釣り、くも合戦、鳴く虫の飼育など、虫との交感をする文化をたくさん持っていました。このような国民は、世界で日本だけだったのです。

エコロジーという考えを知るずっと以前から、日本人が自然を大切に残してきたのは、こうした文化をとおして自然への関心や、愛する気持ちを育ててきた子どもたちが大勢いたこと、おおいに関係があることだと思います。ところが、大変残念なことに、いつのまにか虫を嫌がったり、自然への関心を持たなくなった子どもが急激に増えてきました。それは、自然が少なくなったという要因以上のスピードだと思われます。

「虫嫌い」は、やがて「自然嫌い」になってしまうでしょう。なぜなら虫の嫌いな子どもには、どんなに美しい草原や林でも入るのを嫌がるでしょうから。

僕の絵本は、虫嫌いな子どもや虫に関心のない子どもたちに、少しでも楽しんでもらえたらという願いをこめてちょっと人なつこくユーモラスに作っています。この絵本で、虫が好きになった子どもが、やがて「自然が大切だから守ろう」ではなく、「自然が好きだから大切にしよう」になってくれることを、期待しています。 得田之久

【虫にちなんだ絵本は他にこんなものがあります】

～絵本を読んであげましょう～



☆図書部からの
絵本紹介☆

めつきらもつきらどおんどん
長谷川摂子作 福音館
かんだ君がお社に行って、おぼけたちと遊ぶお話しです。お化け3人組と次々に遊んでいるうちにかんだ君は、光の渦に吸い込まれていきました。さて、いったいどうなるのでしょうか？



にゃーご すずき出版
みやにしたつや作
先生の注意もろくに聞かず遊びに出かけた子ねずみ3匹。そこへ恐ろしい猫がにゃーごと言ってやってきたけれど・・・



どろだんご
たなかよしゆき作 福音館
どろだんごつくろ。だんご虫みたいに小さくつくろ。すいかみたいに大きくつくろ。ビー玉みたいにぴかぴかにつくろ。



こんな本を選びました！



ねこのはなびや
渡辺有一作 フレーベル館
今夜は、猫の花火大会。白ねこ、黒ねこ、トラねこの競い合い。3組3様の花火がとでもきれいです。2箇所に仕掛けが入っています。



ともだち 玉川大学出版部
谷川俊太郎作
ともだちっていつも一緒にいたい人。誰だって1人ぼっちでは生きていけない。好きなものは違って友達違って素晴らしい！



バムとケロのおかいもの
島田ゆか作 文溪社
昨年度の年長のお母様方のアンケートでリクエストNo.1だったバムとケロのシリーズです。今日は、水曜日。月に1度早起きをして車で市場へ買い物に行く日です！



【ちか100かいだてのいえ】

併成社 いわいよしお作

地下20階につきました。すんでいたのはせみの幼虫。次の30階はだんご虫です。

【地面の下のいきもの】

福音館 大野正夫作



☆夏休みの良い機会に是非、図書館などにも行かれてみてはいかがでしょうか☆

みのり図書室だより

平成 30 年 3 月 15 日
大森みのり幼稚園
図書部 柄澤可奈子

～図書の貸し出しにご協力ありがとうございました～

今年度も残りわずかとなりました。年中・年長の保護者の皆様には図書の貸し出しにご協力いただき、ありがとうございます。親子で読書の時間を楽しんでもらえたでしょうか？貸し出しの最終日には、各クラスからお礼の言葉をもらい、とてもうれしかったです。

廊下ですれ違った時や2階の壁面装飾を取り替えている時にも子どもたちから「本を貸してくれてありがとう」と声をかけてもらいました。自然に感謝の気持ちを伝えることのできるみのり幼稚園の子どもたちは素敵だなと思います。

年長さんは小学校でも、たくさんの絵本を読んでもらいたいと思います。ご家族の皆様も「この本読んで」とお子さんが持ってきたら読んであげてください。字が読めるようになって、自分でも読むのと誰かに読んでもらうのでは違う楽しみがあります。

年中さんは4月から引き続き貸し出しがありますので、どうぞよろしくお願ひいたします。年少さんは2学期以降に貸し出しが始まりますので、楽しみにしててくださいね。

韓国の絵本

先月は韓国の平昌で行われたオリンピックが毎日のようにテレビで放送されていましたね。今月はパラリンピックも始まりました。テレビを通して韓国の文化に触れる機会もあったかと思ひます。海外の文化を知る手段としてメディア同様、絵本も大変参考になります。今回は、日韓合同制作された「金剛山のトラ」を紹介します。

このお話は、金剛山に住むトラに父親を殺された少年ユボギが主人公です。父の敵討ちのため何年も修行を続けます。たくましい少年に成長したユボギは1人で金剛山へ向かいトラに戦いを挑みます。得意の弓をトラに放ちますが、トラの反撃にあい、丸のみにされてしまいます。さあ、ユボギはどうなるのでしょうか？

昔から韓国で親しまれている民話が題材となっています。トラは韓国を代表する動物で、かつては多くの野生のトラが生息していました。

トラは怖いものであると同時に強くて尊敬される特別な存在でもありました。オリンピックのマスコットに採用されているのもそのためです。絵本の題材にもよく使われています。

金剛山のトラは韓国の児童文学者のクウォン・ジョンセンさんが民話を再構成して画家のチョン・スンガクさんが18年かけて絵を完成させました。その迫力ある絵をどうぞ親子でたのしんでみてください。



クウォン・ジョンセン再話 福音館書店



春にお勧め絵本

学年別に紹介します。*は幼稚園にある本です。

年少さん向き

*はなをくんくん

ルース・クラウド福音館書店



雪に埋もれた森の中。動物たちは冬眠から目を覚まします。鼻をクンクンさせて駆け出します。雪の中に小さな春を見つけた動物たちの反応は？白と黒の表現の中で動物たちが見つけた春が印象的です。

*たんぼぼ

甲斐信枝 金の星社



たんぼぼの絵本はたくさん出ていますが、この甲斐さんの作品は絵が本当に美しいです。細かいところまでよく見て描いているのでまるで本物をみているかのような感じです。つばみから綿毛になって飛んでいくまでのたんぼぼの一生が描かれています。

年中さん向き

*おなべおなべにえたかな？

こいでやすこ 福音館書店



キツネのきつこがお留守番中におばあちゃんを作ってくれたニンジンスープの味見を何度もしているうちにおなべがからっぽになってしまいました。慌てて豆やたんぼぼを入ると春の香りのおいしいスープができあがり！

*ぐりとぐらのおそうじ

中川李枝子 福音館書店



春の朝、ぐりとぐらが窓を開けて朝ご飯を食べていると、家じゅう埃だらけなのに気がつきません。これは大変！大掃除の始まりです。でも、ホウキやぞうきんが擦り切れて使い物になりません。そこで2匹が思いついたのは……

年長さん向き

給食番長

よしながこうたく 好社



1年2組は入学以来一度もちゃんと給食を食べていません。ついに怒った給食のおばちゃんたちがいなくなってしまう。仕方なく自分たちで給食を作ることになりますがその大変さに気がつきます。おばちゃんたちの苦勞がわかって反省する姿は微笑ましいです。

しゅくだい

いもとようこ 岩崎書店



学校の宿題ってお勉強のことだと思ひますよね。ところが、今日出た宿題はお家の人に「だっこ」してもらおうこと。いやだなあと思ひていたもぐらのもぐくん。家に帰ると宿題のことが恥ずかしくて言えませんが、さあ、どうするかな？

